

## 平成17年度学術創成研究費中間評価結果

研究課題名	概日時計により統合されるシアノバクテリアの細胞システムの時間的統合	研究代表者名	近藤 孝男
-------	-----------------------------------	--------	-------

### 1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア．高い
- イ．やや高い
- ウ．やや低い
- エ．低い

コメント：シアノバクテリアの概日時計の研究を進め、特に *in vitro* の実験において予想以上の成果を挙げた。これを基盤に新たな展開が期待されるので引き続き研究を推進する必要性がある。

### 2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア．予定以上に進展している
- イ．概ね予定どおり進展している
- ウ．やや遅れている
- エ．遅れている

コメント：特に *in vitro* の系における概日リズムの作出は画期的な進展と言える。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア．研究経費
- イ．設 備
- ウ．組 織
- エ．そ の 他

コメント：概日リズムが生物の基本的原理であるなら、シアノバクテリアと真核生物のリズムの発生機構に違いがあることは理解し難い面をもつ。是非、一般原理の解明を考慮に入れて研究を進めて欲しい。

### 3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア．期待以上の成果をあげている
- イ．概ね期待された成果をあげている
- ウ．期待された成果をあげつつある
- エ．期待された成果はあがっていない

コメント：特になし。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア．有機的に連携が保たれている
- イ．あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ．その他

コメント：ゲノム情報研究者との連携が保たれている。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア．効率的・効果的に使用されている
- イ．あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ．その他

コメント：効果的に使用されている。

#### [ 研究課題の総合的な評価 ]

区分	評価基準	チェック欄
A +	研究の更なる発展が期待でき、より一層の推進を期待する	
A	順調に研究成果を上げつつあり、現行のまま推進すればよい	
B	概ね順調に研究が進んでいるが、今後一層の努力が必要である	
C	現状において研究成果が期待できず、研究経費の減額又は研究の中止が適当である	

#### [ 総合的な評価についてのコメント ]

コメント：シアノバクテリアの概日時計の研究を進め、特に in vitro の実験において予想以上の成果を挙げた。これを基盤に新たな展開が期待される。この際、真核生物の概日リズムの発生機構を考慮に入れ、全生物に普遍性のある概日リズム発生の一般原理の解明を視野にいれた研究をも進めて欲しい。